

## とりまとめ総括

- ・医療需要のピークを勘案した将来の病床数の必要量と2025年に向けた医療機能ごとの病床数との比較では、病床総数は422床過剰であり、全体的なスケールダウンが必要である。
- ・定量的基準導入後の各医療機能の充足状況を見ると、回復期・慢性期はほぼ一致か不足となるため、合意とする。
- ・合意としない高度急性期・急性期病床については、毎年度、協議を繰り返していく中で合意を図っていくこととする。

2017年病床機能報告(アンケート調査反映後)						
医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・無回答等	計
三重大学医学部附属病院	410	245				655
三重中央医療センター	42	408				450
三重病院		58	100	【70】 30		188
一志病院			46		40	86
子ども心身発達医療センター				【30】 0		0
遠山病院		184				184
永井病院		128	56	15		199
武内病院		101		46		147
榊原温泉病院		91	48	158		297
七栗記念病院		68	150			218
大門病院		55	27	24		106

2025年に向けた役割・医療機能ごとの病床数						
担うべき医療機関としての役割	医療機能ごとの病床数					介護保険施設等に移行
	高度急性期	急性期	地域急性期	回復期	慢性期	
全県的な高度急性期・急性期医療や政策医療全般に関する中心的な役割を担うとともに、大学病院として県内の医療人材の育成に関する役割を担う。 ☑救急 ☑小児 ☑周産期 ☑災害	(257)	(398)				
津構想区域における急性期機能や救急医療の中心的な役割を担うとともに、総合母子周産期医療センターとして県内の周産期医療の中核医療機関としての役割を担う。 ☑救急 ☑小児 ☑周産期 ☑災害	(90)	(360)				
小児医療中核病院として、構想区域を越えた広域的な医療を提供するとともに、難病医療・重症心身障害児者に対する拠点施設としての役割を担う。 ☐救急 ☑小児 ☐周産期 ☐災害		(58)	50		【70】 80	
美杉・白山地域唯一の病院として、一般医療を提供するとともに、総合診療医を始めとするプライマリ・ケアを実践することができる人材の育成機関としての役割を担う。 ☐救急 ☐小児 ☐周産期 ☐災害			46			
子どものこころとからだの発達支援の拠点としての役割を担う。 ☐救急 ☑小児 ☐周産期 ☐災害					【30】 0	
今後も引き続き、急性期、救急医療を継続するとともに、超高齢化社会を迎えるに当たり、地域包括ケア病棟を新設し、地域住民の方が安心して生活できる環境に寄与する。 ☑救急 ☐小児 ☐周産期 ☐災害		(144)	40			
内科・循環器、外科・消化器、整形外科を中心とした地域における二次救急を主とする急性期医療の提供や、高度急性期病院の後方機能を担うほか、中勢地域で不足傾向にある回復期機能の充実を図る。 ☑救急 ☐小児 ☐周産期 ☐災害	(41)	(87)		56	15	
新築移転の計画があり、特定医療法人障純会として、武内病院は急性期・回復期、榊原温泉病院は慢性期として機能分離し、特化する。 ☑救急 ☐小児 ☐周産期 ☐災害		(101)			46	
急性期医療終了後の回復期リハビリテーションとともに、在宅復帰を前提とした医療療養の役割を担う。 ☑救急 ☐小児 ☐周産期 ☐災害			91	48	158	
引き続き、津区域に根ざした回復期のリハビリテーション、緩和ケアを担う。			48	150	20	
外科系病院として、引き続き二次救急医療を担うとともに、急性期病床の一部を地域包括ケア病床(管理料)に転換し、地域で不足する回復期機能の充実を図る。 ☑救急 ☐小児 ☐周産期 ☐災害		(55)		27	24	

榑原白鳳病院		50		151		201	トリアージの役割を担うとともに、高度急性期・急性期病院から、回復期・慢性期及び療養を目的とした患者を受入れ、在宅医療及び在宅ケアへとつなげる役割を果たす。			48		151
津生協病院		50		60	39	149	高齢者を中心とした地域の軽中度の急性期や、在宅患者の急性増悪等の一次・二次救急医療に対応した入院医療を担うとともに、サブアキュート・ポストアキュートなど、在宅療養支援と在宅復帰支援のハブ機能、在宅復帰が困難な患者層のターミナルケア・看取りの機能を担う。 ☑救急 □小児 □周産期 □災害	(50)		60		32
岩崎病院		52				52	急性期病院、二次救急輪番病院としての役割とともに、後方支援病院として、他施設からの早期退院患者の在宅や介護施設への受け渡しを担う。 ☑救急 □小児 □周産期 □災害	(52)				
若葉病院		45	45	40		130	救急医療を中心とし、急性期病棟での治療後に、回復期リハビリテーション病棟でリハビリテーションを行い、在宅への復帰を促進するほか、療養病棟にて長期療養者を受け入れる役割を担う。	(53)		45		32
吉田クリニック		32		48		80	主として津市北部地域の救急患者の受入と在宅患者の応急受入等を担い、地域密着型医療を提供する。 ☑救急 □小児 □周産期 □災害			35		45
第二岩崎病院				84		84	回復期リハビリテーション病床に転換し、スムーズな在宅復帰への橋渡しを行うことで、地域医療の後方支援としての役割を果たす。			36		48
倉本内科病院				50		50	地域の介護事業所・介護施設と連携し、在宅から終末期まで途切れのない医療を提供するため、引き続き慢性期機能を担う。					50
幸和病院				48		48	(平成31年1月に介護医療院へ転換)					48
井上内科病院				32		32	慢性期もしくは終末期でありながら医療継続の必要な方が入院療養する機能を担う。					32
小淵医院		19				19	消化器内科(胃腸内科)、小児科、外科を標榜し、①病院からの早期退院患者の在宅・介護施設への受け渡し機能、②緊急時に対応する機能、③終末期医療を担う機能を担う。			19		
ヤナセクリニック		19				19	産婦人科を標榜し、専門医療を担って病院の役割を補完する機能を担う。			19		
医療法人東海眼科		19				19	眼科を標榜し、①専門医療を担って病院の役割を補完する機能、②緊急時に対応する機能を担う。			19		
ゆり形成内科整形		19				19	内科、整形外科、形成外科を標榜し、①病院からの早期退院患者の在宅・介護施設への受け渡し機能、②緊急時に対応する機能、③在宅医療の拠点としての機能を担う。			19		
セントローズクリニック		19				19	産婦人科を標榜し、専門医療を担って病院の役割を補完する機能を担う。			19		
ながたレディースクリニック		12				12	産婦人科を標榜し、①専門医療を担って病院の役割を補完する機能、②緊急時に対応する機能を担う。			12		
千里クリニック			19			19	内科を標榜し、①病院からの早期退院患者の在宅・介護施設への受け渡し機能、②緊急時に対応する機能、③在宅医療の拠点としての機能、④終末期医療を担う機能を担う。					19
いたみ眼科					2	2	(過去1年間に入院患者を収容しておらず、6年後も休棟中等であり、今後の運用見通しについて、「看護師の確保ができた」としていることから、病床維持の必要性について確認が必要)					
イタミ内科・整形外科					4	4	(過去1年間に入院患者を収容しておらず、6年後も休棟中等であり、今後の運用見通しについて提出がないことから、病床維持の必要性について確認が必要)					

医療法人 赤塚クリニク					19	19
計	452	1,674	491	786	104	3,507

※医療型障害児入所施設及び障がい者の療養介護を行う施設を除く

(過去1年間に入院患者を収容しておらず、6年後も休棟中等であり、今後の運用見通しについて、「職員の確保等の課題が解決するまで、休床予定」としていることから、病床維持の必要性について確認が必要)						
計	388	1,358	525	381	685	96

(計)						
2025年の病床数の必要量	314	934	881	727	2,856	
将来の病床の必要量(医療需要のピークを勘案)	311	938	908	758	2,915	
将来の病床数の必要量と2025年に向けた医療機能ごとの病床数との差	77	420	-2	-73	422	
協議を継続することとした病床数	388	1,358	0	0	0	1,746